

開館32周年記念イベント MIMOCA'S BIRTHDAY



2022年に開催したゲートプラザでのマルシェの様子 撮影：福田ジン

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)は2023年11月23日(木・祝)に開館32周年を迎えます。この日は、日頃の感謝を込めて特別なイベントを開催します。

日	時	2023年11月23日(木・祝) 10:00-18:00
会	場	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 全館
主	催	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団

広報担当：奥本末世、鈴木美帆

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1

TEL 0877-24-7755 FAX 0877-24-7766

E-MAIL press@mimoca.jp URL www.mimoca.org

—— 概要説明

「美術館は心の病院」

猪熊弦一郎(1902-1993)が残した言葉であり、当館のコンセプトです。猪熊は戦前フランスに遊学し、戦後はニューヨークに20年住んでいました。欧米では街の中に教会があり、人々が疲れた心を癒し、また日常に戻るといふ暮らしの様子を知っていました。そして、美術館にも同じ役割を担ってほしいと考えていました。日常とは違う美しい空間で新しいものに触れ、リフレッシュしてほしい。そのために、誰もが気軽に来ることができる場所に美術館があるべき、と考えて駅前に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA)を建てました。

「猪熊の在り方」

猪熊弦一郎はニューヨークで画家として活動すると同時に、日米文化交流においても重要な役割を担いました。猪熊がニューヨークに活動の場を移した50年代～70年代は海外渡航がまだ身近ではなかった時代ということもあり、日本から同市を訪れる政治家や企業家、一般の旅行者まで、さまざまな人が猪熊を頼りました。猪熊とその妻・文子は誰に対しても気さくに接し、こまやかに面倒をみたことから「民間大使」と称されました。文子夫人が料理をふるまった猪熊邸は「フミ・レストラン」と呼ばれていました。

こうした猪熊の在り方が「心の病院」であるMIMOCAに受け継がれていきました。MIMOCAには、猪熊の温かで、細やかな気遣いが内包されています。

「MIMOCA'S BIRTHDAY」

MIMOCAは今年11月23日(木・祝)に開館記念32周年を迎えます。毎年、開館記念日には日頃の感謝をこめて、皆様をおもてなしするためにさまざまなイベントを開催します。この日は、いつもとは違うお誕生日ならではの「おもてなし」をご用意し、猪熊夫妻のように気さくに細やかな気遣いで皆様をお迎えしたいと考えています。ぜひお越しください。



撮影：増田好郎



ゲートプラザでの猪熊弦一郎



落成式の様子

—— 各おもてなし情報

おもてなし①無料開館

1日限りで全館無料開館いたします。

※混雑を避けるため整理券を発行し、人数制限を行う可能性があります。

時 間	10:00-18:00(最終入館 17時半)
-----	------------------------



開館当初(1991年)の様子

おもてなし②学芸員によるトーク

「お話しします。いのくまさんと絵のこと。」

当館学芸員がゲートプラザの壁画《創造の広場》や猪熊弦一郎の絵画作品などをご案内しながら、猪熊とその作品、またMIMOCAについてお話しします。

時 間	11:00、11:30、12:00、12:30、13:00 (全5回、各回約30分)
集合場所	ゲートプラザ
定 員	なし
申 込	不要



猪熊弦一郎《自画像》年代不明
©公益財団法人ミモカ美術振興財団

おもてなし③ミュージアムグッズのセール

1階ミュージアムショップにて開館記念日引きセールを開催します。

※セール対象外の商品がございますので予めご了承下さい。

時 間	10:00-18:00
-----	-------------

ミュージアムショップ

「人々の身近なところに美しく、楽しいものを」という思いを込めてオリジナルグッズを販売しています。実際に猪熊が製作に携わったグッズもあります。



撮影：増田好郎

おもてなし④タコスパーティー(仮称)

文子夫人がパーティーではタコスをよく提供していたことに着目し、猪熊夫妻のおもてなしを参考に「オリジナルのタコス」を作ってみんなで楽しむイベントを実施します。美術館の正面玄関であるゲートプラザを中心にタコス、ドリンク、デザートなどを提供するブースを展開します。タコスのベースとなる“トルティーヤ”に各ブースで提供される色とりどりのお惣菜をトッピングして、自分の好みにあわせた“オリジナルタコス”を作って食べることもできます。猪熊作品がプリントされたペーパーナプキン・お皿もご用意する予定です。

居心地のいい音楽が流れる空間で、楽しい交流の時間を過ごしていただけます。

時 間	10:00-14:00
場 所	1 階ゲートプラザほか
ブ ー ス	地元の飲食店を中心に、 10店舗ほど出店いただく予定
参 加 料	無料、別途フード購入は必要
主 催	丸亀市、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、 公益財団法人ミモカ美術振興財団、 独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁



年代不明 撮影：猪熊弦一郎 ©公益財団法人ミモカ美術振興財団



2022年に開催したゲートプラザでのマルシェの様子 撮影：福田ジン

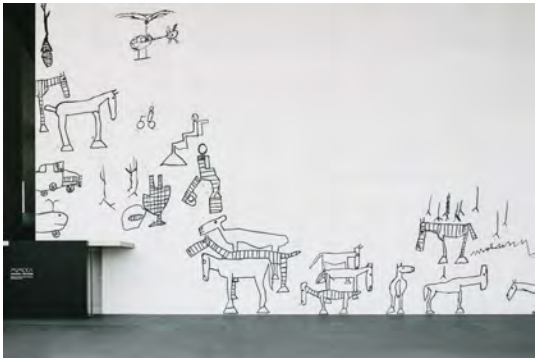
引用

「タコは日本でタコスといいますが、今ハワイで大流行で、安くて簡単でおいしくて、たちながらでも食べられるのでとても楽しいものです」「朝とひるを一緒にしたランチで、ゆっくり雑談しながら、思い思いの工夫をこらして、勝手気ままなやり方で、自分のこのみに合わせた食べ方をするのは、まことにたのしいものです」

「わが家のランチ 猪熊ふみ子」『ミセス』第293号、昭和56年11月7日 発行、p.202

ゲートプラザ

美術館と丸亀市内とを緩やかに繋げる場所であり、大壁画《創造の広場》は街のアイコンとも言えます。現代美術を身近で日常的なものにという館の精神を表すために落書きしたような表現で、猪熊によって親しみがあり、かつ美しく描かれました。

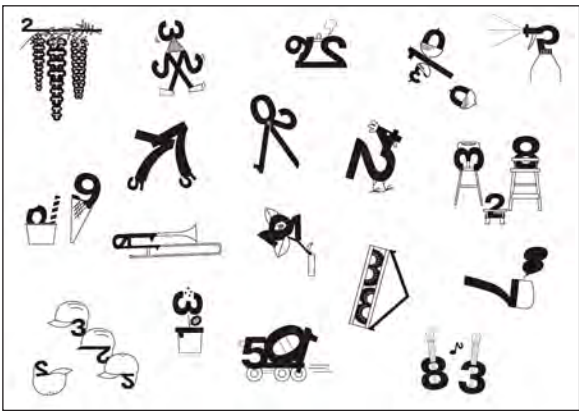


ゲートプラザ 撮影：増田好郎

おもてなし⑤ものづくりワークショップ

“すうじのつぶやき”を講師に、午前に数字を使ったおめん作りWSを実施します。午後は数字を使って自由に作品を制作できるオープnstudioとして開放し、より多くの方に、ものづくりの楽しさを体験していただきます。

時 間	10:30-12:00、13:30-15:00
場 所	2階造形スタジオ
申 込	午前 要申込、午後 申込不要
対 象	午前 小学生以上、午後 どなたでも
参 加 料	午前 300円、午後 無料
主 催	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、 公益財団法人ミモカ美術振興財団、 独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁



提供：すうじのつぶやき

造形スタジオ

子ども達がアートに親しんでもらうために猪熊が提唱して設けられたスタジオ。美術を中心に、音楽・ダンス・演劇など多様なジャンルを通して子どものためのプログラムを実施しています。
猪熊自身が企画・実施したワークショップ、「猪熊先生をかこう!」も、このスタジオで開催されました。



「猪熊先生をかこう!」1991年 造形スタジオにて

おもてなし⑥カフェの特別メニュー

カフェ MIMOCAでは、お誕生日会の特別メニュー「プリン」が登場します。カフェオリジナルの旗を挿して、フルーツを添えて、お誕生日らしく華やかなプリンを提供します。

カフェ MIMOCA

3階カスケードプラザの一角にあり、大階段から直接アプローチできる場所にあります。
内部には猪熊作品が展示され、ドリンクや美味しい食事をとりながら鑑賞できる空間です。



カフェ MIMOCA 撮影：増田好郎



—— 開催中の展覧会情報

企画展「須藤玲子：NUNOの布づくり」 2023年10月8日(日)－12月10日(日)

テキスタイルデザイナー須藤玲子と、須藤が率いる「NUNO」の活動を紹介します。本展では、日本各地の職人、工場との協働作業や、素材の可能性を広げる取り組みに注目し、普段は見ることのできないテキスタイルの制作過程を、音と映像を交えたインスタレーションで展観します。

2019年に香港のミュージアム、CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile)で企画、開催され、ヨーロッパを巡回後、待望の日本開催となります。



常設展「猪熊弦一郎展 生活に美を」 2023年10月8日(日)－12月10日(日)

生活のあらゆるシーンに美を、と考えていた猪熊弦一郎がデザインしたテキスタイル、グラフィックなどを紹介。須藤玲子が新作テキスタイルでコラボレーションした猪熊の絵画作品も出品します。



猪熊弦一郎《顔80》1989年
©公益財団法人ミモカ美術振興財団

※そのほかイベントは詳細が決まり次第、WEBにて告知いたします。

—— 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

丸亀市の市制施行90周年の記念事業として、丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎の全面的な協力のもと1991年11月23日に開館しました。建築家の谷口吉生による美しい建築を丸亀駅前に構える当館は、猪熊本人から寄贈を受けた約2万点の猪熊作品を所蔵し、常設展で紹介するとともに、現代美術を中心とした企画展を開催しています。また、講演会やコンサートなどの多彩なプログラムや、子どもの感性や創造力を育むワークショップなどを開催し、教育を目的とした活動にも力を入れています。



撮影：増田好郎

—— 猪熊弦一郎のプロフィール

- 1902年 香川県高松市生まれ。少年時代を香川県で過ごす。
- 1921年 旧制丸亀中学校(現 香川県立丸亀高等学校)卒業。
- 1922年 東京美術学校(現 東京藝術大学)に進学。藤島武二教室で学ぶ。
- 1926年 帝国美術院第7回美術展覧会に初入選。以後、第10回、第14回で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1936年 志を同じくする伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、中西利雄、脇田和、鈴木誠と新制作派協会(現 新制作協会)を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938年 フランスに遊学(1940年まで)。アンリ・マティスに学ぶ。
- 1948年 『小説新潮』の表紙絵を描く(1987年まで)。
- 1950年 三越の包装紙「華ひらく」をデザインする。
- 1951年 国鉄上野駅(現 JR東日本上野駅)の大壁画《自由》を制作。
- 1955年 再度パリでの勉強を目指し日本を発つが、途中滞在したニューヨークに惹かれそのまま留まることとし、約20年間同地で制作する。
- 1973年 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1975年 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。
- 1989年 丸亀市へ作品1000点を寄贈。
- 1991年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。
- 1992年 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993年 東京にて死去。90歳。



撮影：高橋章